

令和3年度和歌山県文化奨励賞

いとう あや 伊藤 彩

住 所 和歌山県有田市

出身地 和歌山県有田市

生 年 昭和62年

◎ 業績及び経歴

昭和62年有田市に生まれる。平成21年京都市立芸術大学美術学部美術科油画専攻を卒業、平成23年同大学院美術研究科絵画専攻油画を修了。在学中から精力的に作品を発表し、大学卒業時の作品がアートアワードトーキョー丸の内2009で準グランプリを受賞、大学院修了時の作品がアートアワードトーキョー丸の内2011で長谷川祐子賞及びシュウウエムラ賞を受賞するなど、常に高い評価を得てきた。

平成27年和歌山県立近代美術館主催の「リアルのリアルのリアル」展では、空間そのものを取り込むような縦5メートル横21メートルに及ぶ圧巻の作品を制作。平成29年にはアイルランドで作品展を開催するなど、国内外から一層の注目を集める。

氏の制作活動は、「フォト・ドローイング」という独自の画面構成方法から成り立つ。過去に描いた絵画や紙のドローイング、写真、陶器などの立体物、布、家具などを組み合わせ、ライティングも施した一種のジオラマを設置。このジオラマを多方向から、時には氏自身が入り込みながら、数千枚にも及ぶ写真を撮影し、その写真を眺め組合せることで、構図やアングルの視覚的効果を検討し、画面を再構築して絵画として表現する、というものである。

この手法を用いることで、奥行き感の喪失、ねじれ、物質感のそぎ落としなどが起こると同時に、濃密なリアリティが作品の中に息づく。そこに、氏の類まれなる色彩感覚と、描くよろこびのエネルギーが充填された時、氏が追及する「無意味」をまさに具現化しつつも、見る者にユーモアやどこか楽しさすら感じさせる「意味はないが魅力的」なもので溢れた氏の作品が完成する。

独自に発見した制作手法により、描くこと生きることのよろこびを表現するのびやかな作風をもつ氏は、現代美術作家として、今後より一層の活躍が期待される。

■ 現 在

・現代美術家

◆ 主な表彰歴等

平成19年 Art Camp2007サントリーミュージアム [天保山] サントリー賞

平成21年 アートアワードトーキョー丸の内2009 準グランプリ

平成23年 2010年度京都市立芸術大学作品展 大学院市長賞

アートアワードトーキョー丸の内 2011 審査員賞（長谷川祐子賞）、シュウウエムラ賞